

## 「全鍍連」 2022年 8月号 若者から一言

石川県鍍金工業組合

青年部代表幹事 鴻野 健太郎 (石川メッキ工業(株) 専務取締役)

「イマドキの若者は！」という言葉と青年部活動」



石川県鍍金工業組合青年部代表幹事の鴻野健太郎です。当青年部は、2020年10月2日に設立をしました。2018年2月に開催された全鍍連主催『青年部交流会』に初めて参加した際に、他組合の青年部活動や横のつながりの深さを見て、非常に羨ましく感じて、設立を決意しました。この当時29歳の私（平成元年生まれ）は、各所から「イマドキの若者なのに熱意があって素晴らしい！」と言われました。

当社石川メッキ工業(株)の話します。5年前より採用活動に本格的に着手しました。この5年間で、新卒採用と中途採用を合わせて、平成生まれの男女を13名採用しております。都合による離職は1名ですので、離職率は低い方もみれません。各所から「イマドキの若者なのに、よく採用して離職せず続けているね！」と言われます。

今回の執筆依頼を受けて、私も含めた『イマドキの若者』の意見をめっき業界に伝えたく、「内閣府 平成30年版子供・若者白書 就労等に関する若者の意識」を参考に、平成生まれ従業員にアンケートを実施した結果を、ご案内致します。

仕事を選択するときの観点の中で、「自分のやりたいことができること」「自由な時間が多いこと」を重要視していると回答した人が100%でした。一方、「社会的評価の高い仕事であること」「実力主義で偉くなれること」「特別に指示されずに、自分の責任で決められること」を重要視していると回答した従業員50%でした。社会的評価は気にせず、自分のやりたいように自由に仕事がしたいのでしょう。このような記述だと、『イマドキの若者』は向上心が無くやる気が無いと感ずるかもしれませんが、実はそうではないとわかりました。「自分が身に着けた知識や技術が活かせること」「能力を高める機会があること」を重要視していると回答した人が90%以上でした。学びの継続についても、「希望する」「条件が整えば、希望する」という回答が90%以上でした。

したがって『イマドキの若者』には、心に秘めた向上心があり、自ら向上した技術を活かしたい思いが強くあるようです。一般的に、「物の購買」から「コト消費」にシフトしている世代であると聞きます。能動的に動くことを苦手とされていますが、学ぶ・経験するチャンスがあれば積極的に飛びつき、自分の業務に活かし効率化を進めているようです。

石川県鍍金工業組合青年部は、“社員と共に成長し未来を見据えた業界の土台作りをする”ことを活動の目的としています。まだ設立して2年ではありますが、若手社員のための勉強会を年3回開催し続けております。勉強会で学んだ

内容が、私を含めた経営者との共通言語になることでコミュニケーションが増えます。『イマドキの若者』にチャンスを与えることで、若手社員の成長を促しつつ、経営者自らも参加し、一緒に勉強し、語り合う。それが『イマドキの若者』と繋がる第一歩と思い、活動を続けていきます。